宣教の声
The Voice of Mission
海外邦人、欧州諸国、
および迫害下にある聖徒への宣教
2022年 4 月号
No. 475

ルーマニア・カルパチアのある村での集会

ミッション・宣教の声 主幹
黒田 禎一郎

みことばにどう反応しますか

「この人はヨセフの子ではないか」と言った。
ルカ4・22

イエス・キリストの復活を心から賛美します。

クリスチャンではないのに、クリスチャン以上に聖書とキリスト教に詳しい方がいました。今もいます。彼は聖書の歴史（ユダヤ史）、文化、イエス・キリストの言動、奇跡、説教など、大変詳しいのです。しかし、イエス・キリストを信じてはいませんでした。そして、それで世を去って行きました。彼は残念ながら神に対するかたくなな自分の型を持ち、最後までその型を捨てられず、信じることができませんでした。

自分の作った型の中に、神をはめ込むことはできません。自分の考えの型を壊すとき、無から有を造られた神を信じることができます。神を信じると言いつつも、自分の型を大切にする人がいます。そもそも人間は、創造神によって造られた存在です。被造物が創造主である神を、自分の型にはめ込むこと自体無理があります。私たちはそのような型によって、神を、聖書を、読んではいないでしょうか。イエスの郷里の人々は、自分たちが知っている青年がメシアなのかと疑いました。ナザレ村の人々にとって、イエスは大工ヨセフの息子でした。偏見と高慢は、霊的成長を妨げる障害物となります。先入観によって、彼らはいのちのメッセージを受け入れることができませんでした。

では、自分の型を壊すためには、どうすればよいでしょうか。神に対し心を開くことです。自分が固守しているものを、思い切って捨てることです。しかし、それは容易ではありません。それほど自分の型は強固なものだからです。ある時、イエスは「子どもたちを、わたしのところに来させなさい。邪魔してはいけません。神の国はこのような者たちのものなのです。」（ルカ18：16）と言われました。幼子の無垢な心と依存心、それは大人が失ったものです。大人は自分の型で、自分を固めてしまっています。ここに、みことばが入らない事実があります。

聖書のみことばにどのように反応するかによって、私たちの信仰が成長するかどうかが決まります。神の前に心を静め、みことばを聴くことです。サムエルのように「主よ、お話しください。しもべは聞いております。」（1サムエル3：9）という姿勢を持つことです。そのような選択をするとき、神が注いでくださるのが「恵み」です。クリスチャン生活は、「恵み」にとどまり、「恵み」の内を歩むものです。そこには真の励ましと慰めがあります。

コロナ禍の海外邦人宣教16
オセアニア在住邦人宣教

クライストチャーチ日本人キリスト教会 牧師
渋 沢 憲 一

ニュージーランド邦人宣教

皆さん、こんにちは。ニュージーランド・クライストチャーチにて日本人教会の牧師として仕えております、渋沢憲一と申します。今回は2回に分けて「ニュージーランドにおけるコロナ禍での邦人宣教」に関して、ご報告させていただきます。

ニュージーランド邦人宣教に関して、2021年7月に大変画期的なことが起こりました。ニュージーランドにおいて初めて、全国規模での『日本人クリスチャン・カンファランス』が行われたのです！

ニュージーランドは地理的に大海に囲まれ、他国から離れた位置にあるため、2021年の前半は「コロナ禍」の影響を免れ、100人以上の規模の集会を対面で行うことができました。ところがこのカンファランス直後の8月からとうとう『デルタ株』が国内に侵入したため、全国規模のロックダウンとなり、それ以降今に至るまで50人以上の集まりは許されていません。しかしこの『奇跡』とも言える7月のカンファランスを発端として生まれたつながりが、現在もオンラインを通して活発に用いられ、実に様々な形で新たなタイプの「主のみわざ」を生み出しています。その中には「地域を超えたバイブル・スタディやフォローアップの交わり」、「各地域のリーダーたちの定期的な分かち合いと祈り」、そしてオンラインを通じて築かれた関係に基づいて、国内を移動できるようになった時に実際に会いに行き励まし合ったりすることです。

ニュージーランド全国で『日本人教会』と呼べるグループは3～4つ、そして日本人クリスチャンによって導かれている小グループが10個くらいしかありません。しかもそのうち『牧師』と呼べる働き人がいるグループは2つだけです。またそれぞれの置かれている状況や集いの形態、また直面している課題も非常に異なっています。ですから、互いの間の情報交換や祈り合いは大きな力と意味を持っています。しかし1年前までは現在のような関係が無かったばかりか、思いつきもしませんでした。つまり『コロナ禍』と上記のカンファランスがなかったら、今のような主の働きの展開は始まることがなかったかもしれないのです。まったく神様のなさるみわざは、私たちの思いを遥かに超えていますよね！

クライストチャーチ日本人キリスト教会

一つの共通点

そのようにそれぞれのグループが大変ユニークである中、どのグループも持っている1つの大きな共通点があります。それは「いつも『福音宣教』ということに思いが向いている」ということです。この1年間で『オンライン』が最も活発に活用された1つのきっかけは「オンラインで『アルファコース』という伝道プログラムを行う」ということでした。あるグループリーダーの方は、1週間に3～4つの『アルファコース』を運営しており、ごく普通の主婦でありながら、伝道者さながらのスケジュールで神と人とに仕えています。

また、この「伝道熱心である」ということのほかに、私たち国外に居住する日本人クリスチャンのもう1つの特徴は「教団・教派などにこだわらず、単純に主イエス・キリストにあって一致し、唯一の神である方を賛美し、互いのために祈り合い、深い内容の分かち合いができる」ということです。しかも素晴らしいことに、最近ではニュージーランド国内だけでなく、日本国内に住んでいるクリスチャンの方々も巻き込んでの『オンラインの集い』も少しずつ始められているようです。私たちの『宣教熱』が少しでも日本に飛び火してくれると良いのですが…

思わぬ贈り物

また、これは昨年の初めに日本在住のクリスチャンリーダーの方による声掛けで始められたのですが、2カ月に1度「アジア・オセアニア日本語教会ズームコネクション」という交わりが行われており、アジア＆オセアニア計10か国15地域以上から日本語教会のリーダーたちが参加しています。実は私自身はこの『オンライン・ミーティング』というものにあまり気が進まず、当初はこの交わりに参加することを敬遠していたのですが、一旦参加してみると、同じような「思い・情熱・葛藤」を抱えた方々が多く、思った以上に励ましや示唆を受けることができています。これもある意味『コロナ禍』がもたらした「思わぬ贈り物」と言えるのではないでしょうか？

次回は、私が牧会する『クライストチャーチJCF』に焦点を絞ってお分かちしたいと思います。（つづく）

渋沢牧師ご夫妻

伝道、プレゼントにもおすすめです。
聖書の集い・連続メッセージ
「讃美歌詩・聖歌詩の背景から学ぶ信仰」
第1巻～第9巻 刊行
多くの人たちに親しまれている讃美歌詩・聖歌詩の背景にある作詞者の信仰に焦点をあてる励ましのメッセージ集です。
中綴じB6サイズ ¥500（税別）
ご注文は「ミッション・宣教の声」事務局まで。
その時、わがたましいは歌う
ミッション・宣教の声 主幹 黒田 禎一郎

海外伝道シリーズ

旧東ヨーロッパの教会と信者は今

167

キルギス共和国

黒田禎一郎

すると主人はしもべに言った。「街道はや垣根のところに出て行き、無理にでも人々を連れて来て、私の家をいっぱいにしなさい。」　ルカ14:23

中央アジアに位置するキルギスは、人口約650万人の小国です。そこに最近イスラム教勢力が強まり信仰の自由に制限がかかりつつあります。キルギス人は昔から家畜を飼う遊牧民で各地に散っていましたが、イスラム教は10世紀以来、この国を支配してきました。旧ソ連支配時代のキルギスは、無神論主義に毒され、今度はイスラム教が覚醒して国全体をイスラム教化しようとしています。キリスト教徒はイスラム教徒に改宗を迫られています。現在、イスラム教寺院（モスク）は国内各地で建築工事を進めています。

唯一の収入源としてのゴミ捨て場

ソ連邦崩壊後、ほとんどの人々は自分の土地に戻り農業に従事するようになりました。しかし社会全体が崩れてしまった当時は収入を得る仕事はなく、住民の多くが首都ビシュケクに集中しました。彼らは仕事を求め生活資金を得るためでした。2021年1月の統計では、最近20万人も人口が増加し約108万8,900人となっています。それに伴い新しい居住区ができ、土地と家屋の値段が急騰してきました。そのような中、貧困者は住むために安価な地へ行かざるを得なくなりました。アルチン・カシックいう名のスラムは、かつては金鉱として知られていましたが、現在ではスラムとなっています。じつはそこが現在、市のゴミ捨て場なっているため、常に悪臭が立ち込め住居にも及んでいます。未処理ゴミが持ち込まれ、昼夜火がくすぶることが止みません。そこでリサイクル可能なプラスチックや金属を見つけ、買い手に売ろうとする人々が集まっています。彼らはその日銭で生活している人たちです。

スラムの子ども

絶望と苦しみの中での助けと受け入れ

主イエス・キリストにとってゴミ捨て場の人々は、決してどうでもよい人たちではありません。いいえ、主は彼らが人生の意義と希望、そしていのちを得るために、主の働き人を送られました。2020年春、彼らと初めてのコンタクトが取れて以来、首都ビシュケクのキリスト教会は4度の伝道を目的とする活動を行いました。人々は多くの面で生活の必要のため頭を悩ませています。とくに現在はコロナ禍で、さまざまな制限下で、西側クリスチャンとの協力で食料品が配布されています。助け手はクリスチャンですが、受け手側はムスリムであるにもかかわらず、ほとんどの人々は食料品を受理してくれました。そればかりか、当初はクリスチャンに警戒心をいただいていた人たちが心を開くようになりました。そして2人の青年がトラクトと集会案内を受け取ってくれました。イエスはある時、次のように言われました。「どの家に入っても、まず、『この家に平安があるように』と言いなさい。そこに平安の子がいたら、あなたがたの平安は、その人の上にとどまります。いなければ、その平安はあなたがたに返って来ます。」（ルカ10:5、6）その2人の青年は、正しく平安の子でした。

カバンの贈物を受け取る子どもたち

子ども伝道から

2021年8月、クリスチャン伝道チームは300個のカバンと学用品を購入しました。そしてそのカバン内には子ども用トラクトを入れました。ある日の午後、伝道チームは子どもたちと母親を空き地へ招きました。それは子ども集会を開くためでした。短いあいさつの言葉の後、チームは子どもたちに楽しいゲームを指導しました。子どもたちは大喜びで、時間が経つのも忘れゲームに夢中となりました。子どもたちは贈物のカバンを喜んで受け取りました。子どもたちの心に、その時は忘れられない思い出となりました。つづいて翌月の9月に、第二弾の「子どもの集い」を開きました。今度は衣服と衛生用品を配布したところ、人々は喜んで受け取りました。貧しい人々への援助は、人々の心を開き信頼関係を築く第一歩の働きとなりました。そこにはムスリムとクリスチャンの壁はありませんでした。人々は先ず心を開いてこそ、福音が心に届くものです。

救援物資を配布中

異文化社会での伝道

キルギスの文化は西側社会とは全く異質といえましょう。たとえば、年上の人に対する敬語と態度は必須です。子どもは両親、叔父、叔母に対しては敬語を用いることは普通で、叔父、叔母は第二の両親のような立場です。結婚相手は両親が配偶者を決めるので、配偶者を選ぶ自由選択の余地はありません。今も強制結婚は多々ありますし、結婚目的のため少女が誘拐されるケースも発生しています。最近も16歳の女児が10年以上も年上の男性と結婚させられました。結婚は役所への届けではなく、男性宅で行われます。このような例もありました。ロシアへ出稼ぎ労働者で行った男性が結婚のために帰宅し、親が決めた配偶者と結婚しました。しばらくして妻の妊娠が分かり検査を受けてところ、エイズ検査で陽性反応が出ました。噂はたちまち村中に知れわたり、結果として若妻は夫の家族から淫行女性と言い渡され、家から追放されました。

キルギス伝道は全くの異文化社会であり、多くの課題を担わなければなりません。どうぞ、お祈りください。（つづく）

北朝鮮からの叫び 52

出会いを待っておられるイエス様

神の子どもである私たちは、救いの良き知らせを全世界へ伝えるべく、大宣教命令（マタイ28：19～20）を主イエス様から授かりました。良き知らせである福音は、単なるグッドニュースではありません。たとえ、人を魅了するような名説教や深い神学を並べても、キリストの十字架が核とならないのならば、それは福音とは呼べません。十字架を掲げる福音自体に神の息が宿り、その心と人生を180度変える力があります。イエス様と出会い、回復されたたましいは溢れる喜びのあまり、誰も考えたことのないような奇跡を起こします。たとえ、福音が遮断された場であっても、イエス様はそこにおられ、救いが実現することを待っておられます。全世界の創造主なるお方は、この世のあらゆる所に存在され、神が支配しておられない所は何処もありません。イエス様はキリスト者の迫害が最も厳しい国である北朝鮮にもおられます。ここに福音の生きた力が働く2つのストーリーがあります。

神の愛の発信源

キム・ヨンホは、北朝鮮でキリスト教とは縁遠い家庭で生まれ育ち、海外で宣教師や伝道者に出会うような機会は全くありませんでした。ところが、キムは北朝鮮国内で初めて福音を聞き、その後、韓国で暮らす脱北者たちとの秘密裏の繋がりを通して救われました。彼は北朝鮮でキリスト者として歩み始め、やがては地下教会指導者となるまで成長し、今は伝道者として仕えています。コロナ禍前、キムは表向きには中国への出張と称して、時には密航して中国に渡りました。その目的は、自由な場所で礼拝を捧げ、御言葉に集中することでしたが、彼が中国へ渡る理由は他にもありました。それは取引先の中国人たちに福音を伝えることでした。彼は自分を通して亡命した脱北者たちや、中国や韓国の友人、知人たちに至るまで、福音を伝え続けています。北朝鮮に住んでいるキムを通して、北朝鮮国内だけでなく、韓国や中国からも救いが起こされました。救われた彼らは聖霊と共に歩み、そんな彼らからも祝福がさらに増し加えられていきました。キリスト者の不毛地帯とされる国が発信源となり、国境を越えて福音が浸透し、大陸にまで神の愛は止ることを知らず広がっていきました。

1冊の古い聖書が呼んだ奇跡

ある地下宣教師であるA師が中国から北朝鮮内に潜入したとき、ひとりの聖徒から使い古された1冊の聖書を譲り受けました。北朝鮮の聖徒たちの涙とキリストへの愛が詰まった聖書に感動した彼は、宝物を受け取ったかのように、その聖書を大切に持ち帰ろうとしました。彼は北朝鮮を出るまで、聖書が誰にも見つからないように土中に埋めて隠しておきました。その数日後、A師が中国へ戻る時、あの隠した聖書を掘り出そうとしました。ところが隠してあったはずの聖書が、どこを探しても見当たりませんでした。彼は必死になって、聖書をあちこち探しましたが、見つけることができませんでした。そんな時、彼は一人の老婆がその聖書を見つけ、彼女が持ち出したことを知りました。彼はその老婆に、もらった大切な聖書をどうしても持ち帰りたいので、返して欲しいと頼みました。ところが、老婆はこの聖書は返さないとの一点張りで、どんなに懇願しても、彼女は頑として返そうとはしませんでした。とうとう諦めたA師は聖書を取り戻すことができず、そのまま中国に帰りました。

それから2年後、彼は再び北朝鮮に入り、あの聖書を返してもらおうと、2年ぶりに老婆のもとを訪ねました。老婆は彼を見ると、もうその聖書は返せないと言いました。何故ならその1冊の聖書を通して、地下教会が2つできたということでした。はじめに、聖書を手にした老婆の心に聖霊の火が灯されました。やがて、その御言葉は飢え渇いた多くのたましいたちを引き付け、人々の心を覚醒させました。御言葉の恵みが泉のように流れ出すと同時に、救われた人々の上に聖霊が臨まれました。何もなかったその場所で、ひとりの老婆が聖書を手にした小さなきっかけが、2年間に2つの教会が生まれたという、神の驚くべき御わざが起こりました。

福音の展開

私たちは、福音のない場所に福音を伝えると思いがちですが、それは私たちの錯覚に過ぎません。「宣べ伝える人がなくて、どうして聞くことができるでしょう。」（ローマ10：14）とあるように、福音を全地に告げ知らせる使命は全ての聖徒たちに与えられています。主は良き知らせを伝える者の足を喜び、祝福して下さいます。しかし、福音は私たちの目的や意志によるのではありません。私たちの罪のために全てを捧げて下さったイエス様御自身が福音であり、実際的な神の恵みです。イエス様はサマリヤの井戸の横に座り、一人の痛んだ魂と出会うために待っておられました。サマリヤの女に出会われた同じイエス様が、2千年の時を越え、キム・ヨンホやその老婆のように今日も心が渇望した人々にも出会いたいと、既に待っておられます。そして、イエス様と出会った私たちキリスト者が、自分の思いや意志、願いなど、自分の全てを捧げて、神を愛するならば、そこからさらに福音が展開され、福音の恵みが雨のように人々に注がれていきます。私たちがキリスト者として、どのように歩むかは、もはや私たち一人の問題ではありません。私たちそれぞれは神の御前にあって、他の魂のための責任もあります。私たち一人ひとりがこの福音宣教のために、神に用いられる器となるよう、神のために生きようではありませんか。

しかし、イエスは彼らにこう言われた。「他の町々にも、どうしても神の国の福音を宣べ伝えなければなりません。わたしはそのために遣わされたのですから。」（ルカ4：43）

（名前は仮名です）（次号につづく）

北朝鮮兵士たち

イ ン ド

インド政府は最近、海外から財政的支援を受ける団体に制限をかけつつあります。それは国際宣教団体「オープン・ドアーズ」等のキリスト教海外宣教団体は、口を揃えて発表していることです。背後にヒンズー教国粋主義者たちの政治的圧力が増し加わっている、と思われます。彼らは「インドはヒンズー教国であり、インド人はヒンズー教徒でなければならない。」と主張しています。コロナ禍以前から以降にわたり、海外から多数のキリスト教宣教団体がインドに救援物資を運び、物的支援を通して宣教活動を活発化させてきました。2020年9月、政府は海外から個人、法人、企業の活動支援に対し制限を課すよう、法律改正を行いました。各団体と組織は海外からの支援に対して許可を取得しなければならなくなりました。国際宣教団体「ブレッド・フォー・ザ・ワールド」や、インドで60箇所以上のプロケジュト支援をしてきた「インターナショナル・欧州バプテスト宣教団」などは、同じくこの法律に触れることになりました。どうぞ、お祈りください。

フランス国旗

フランス

カトリック教国フランスにおいて、「10日に一つの福音派教会が誕生している」と、パリの「フランス・プロテスタント開拓教会委員会」（CNEF）のダニエル・リーヒチ師委員長は語っています。これはフランス教会史で見られなかった教会誕生の祝福です。CNEFには仏福音派信者数約65万人の70%が所属し、33教団が所属しています。ダニエル・リーヒチ師委員長によれば、フランスには約2,500の福音派教会があります。1970年以来、1,750教会が誕生しました。人口1万人に対して一教会という目標からみれば、まだまだ目標には到達していません。2010年には、開拓教会は3万1千人に対して1教会が生まれました。現在は2万9千人に対して1教会です。ダニエル・リーヒチ師委員長は、非常に世俗化したフランス社会で、キリストの福音こそ唯一の救いであると語っています。回心し救われたフランス人たちは、クリスチャンとの交わりを長年持っていた人々でした。現在のフランスでは、キリスト教会の大イベントによる伝道は意味が薄いと言われます。なぜならフランス社会はキリスト教からあまりに遠く離れたところに位置しているからです。それよりも個人的接点と執り成しの祈りこそが大切です。今、フランスは開拓教会の専門家という声さえ囁かれます。どうぞ、つづいてフランスのためにお祈りください。

パキスタン

聖公会の聖職者ウィリアム・シラ牧師（75歳）は、礼拝後に何者かによって射殺されました。事件は今年1月30日パキスタン北部のペシャワールで、礼拝後に起こり、その際同乗していた同労者のパトリック・ナーエム牧師（55歳）も負傷しました。2人は礼拝後の帰宅途中のところ、オートバイに乗った何者かが近づき銃を発砲しました。車にはもう1名同乗していましたが、幸いにも負傷しませんでした。パキスタン人権委員会よれば、犯行はイスラム教過激派によるものと思われます。人権委員会は、少数派のクリスチャンに対しての攻撃事件は今後も発生すると考えられるため、当局に保護を要請しました。お祈りください。

ド イ ツ

ヘッドスカーフを被る女性

●ドイツ西部の町ヘルネにあるカトリック教病院「聖マリア病院」で、イスラム教徒の女性（24歳）が勤務中にヘッドスカーフを外さなかった理由から解雇されました。女性は3ヶ月の実習期間を終える予定でしたが、実習開始後2週間しても、ヘッドスカーフを外しませんでした。病院側は女性に仕事中は外すよう指示していました。それは聖マリア病院の就業規則です。病院はさまざまな患者を迎える中立的立場から、病院内では信仰の象徴ともいうヘッドスカーフを外し、仕えることが求められていました。職場における個人の信仰と仕事の関係について、波紋が投げかけられました。イスラム教徒の多いドイツでは、決して小さな問題ではありません。

●キリスト教出版社「イデア誌」は、ドイツの15大都市におけるキリスト教会の教会員動向を調査しました。調査は2021年度末に行われ、前年度と比較されました。明白なことは、教会は信徒数を大幅に失ったことです。最大はケルンで、2021年は1万9,340人が脱会し、前年度（6,950人）に比べ178%の教会員が減少した数字でした。次にライプチッヒで、昨年は3,045人の脱会者で、前年度（1,508人）に比べ102%でした。第3位はミュンヘンで、22,323人の脱会者で、前年度（13,549人）に比べ65%でした。そしてデュッセルドルフ71%、ヌルンベルク50%、デュイスブルク56%、エッセン48%の順となっています。

これらの数字が示すように、宗教改革者マルチン・ルターが生まれたドイツは、非常な事態となっています。ドイツ人が教会から脱会する最大理由は、教会税の問題があると言われます。ドイツでは国教会に属する信者は、宗教税を納める義務が課せられています。冠婚葬祭の時ぐらいしか教会へ行かない信者にとっては、負担が大きく感じられます。最近の連続した会員数現象は、ドイツ社会の道徳観と倫理観にも表れ、残念ながら社会腐敗は止まることがありません。そのような社会環境の中で、ドイツのキリスト教会には世俗化の波が押し寄せてきました。しかしドイツ社会で唯一教会員数が伸びている群れがあります。それは、ロシアから帰還したロシア系ドイツ人教会です。彼らはこの50年間で教勢を爆発的に伸ばし、至るところにキリスト教会を建てています。このように2極化した現象は、単にドイツだけでの問題ではありません。終末時代の兆候の一つに挙げられます。どうぞ、お祈りをお願いします。

会員数が減少した会堂

ブルキナファソ

西アフリカに位置するブルキナファソでは、政権の不安定が現在も続いています。キリスト教国際宣教団体「オープン・ドアーズ」は、1月24日に起こった軍事クーデターによってロッホ・マルク・カボレ大統領が失墜し、国内情勢は不穏な状態に置かれていると報じています。人口約2,000万人の内約60%はイスラム教徒で、25%がキリスト教徒、残りは土着宗教を信じる人々です。クーデター派は政権を握る北部で、イスラム教徒と戦いで、現地キリスト教徒を解放すると言いますが、専門家は懐疑的に考えています。先行き不透明なブルキナファソは、国内の混乱を招き大きな経済的損失も受けています。それに一般市民の多数が犠牲となっています。国の安定とクリスチャンの守りのため、お祈りをお願いします。

政権不安定なブルキナファソ

トンガ

南太平洋の楽園と呼ばれるトンガで、1月中旬海底火山が爆発し「つなみ」が起こり、3人の命が奪われて15人が負傷しました。これはメソジスト教会のインターネット版で報道された数字ですが、トンガは約170の島々に約10万5千人の人口があります。人口の約3分の1はウェスレー派教会の会員です。メソジスト派とはメソジスト運動を起こしたジョン・ウェスレー牧師（1703年～1791年）に由来します。本来ならば、この大爆発でもっと多数の被害者が出ても不思議ではありませんでした。しかし被害は最小にとどまりましたが、災害後の現在、インフラの回復はじめ社会の多方面で復旧作業の助けが必要です。どうぞ、お祈りください。

イラン

マティアス・ハーネヤード牧師

昨年12月30日、刑務所から釈放されたマティアス・ハーネヤード牧師は、1月15日に再逮捕されました。国際人権委員会（IGFM）とキリスト教出版社「イデア社」は今回のハーネヤード牧師の再逮捕を伝えましたが、これまでにも「今月の囚われ人」として2度上げられ、世界中のクリスチャンから祈られてきた牧師です。彼はプロテスタント「イランの教会」牧師で、2006年以来、繰り返して逮捕され、今回は6年の刑を受けました。どうぞ彼の釈放のためにお祈りをお願いします。

中国

中国南西部の成都の三自愛教会

今年2月、冬季オリンピックが盛大に行われた中国は、世界の人々が注目しました。それは単にスポーツ・イベントだけでなく、クリスチャンたちが共産主義社会で、どのように生活しているかという関心です。中国政府宗教局はキリスト教会を3種に分けています。まずは「三自愛教会」という政府公認教会とカトリック教会です。この教会は政府の管理下に置かれ、すべての宗教活動は監視された制限の中で宗教活動をしている群れです。それは赤色で識別されます。次に政府公認教会以外のすべての教会、すなわち地下教会、家の教会等です。家の教会と言っても1千人以上が集う大きな群れもあります。このグループの教会は灰色で識別されています。そして第3のグループは、有害なカルト集団（教会）で、犯罪集団としてみなされ黒色で識別されています。

黒色集団は別として、信仰のための迫害は灰色集団ばかりでなく赤色集団内でもあります。とくに地下に潜伏し信仰活動をしている家の教会は、固定建築物は保有せず、青空の下や個人宅で礼拝（集会）を開き、常に柔軟性をもって活動しています。彼らの特徴は聖書をそのまま神の言葉として受け入れていることです。彼らにとって信仰の障害（困難）があることは普通で、単に聖職者だけがキリストの福音を伝えるのではなく、キリストの救いを経験した個人が個人に伝道しています。中国では大胆な信仰生活を送る人々が多数います。広大な中国大陸では宗教局や公安によって取り調べに温度差はありますが、基本的には共産主義思想に立ちクリスチャンたちに判定が下されています。現在、クリスチャンの増加率は年間約7%と言われます。このような状況下で、正確なクリスチャン数は不明ですが、少なくても1億数千万人はいると言われます。大国中国のクリスチャンのために、どうぞお祈りください。

各地にある監視カメラ

ミッション・宣教の声 The Voice of Mission
〒541-0041 大阪市中央区北浜2-3-10 VIP関西センター 5F
TEL06-6226-1334 FAX06-6226-1336
E-mail senkyo@vomj.jp http://vomj.jp/
発行人 黒田禎一郎
年間購読料 ¥2,500（送料込）

郵便振替口座 00940-3-301623
銀行口座 三菱UFJ銀行 堺東支店（店番205）
普通口座 3623132「ミッション宣教の声」
The Voice of Mission
MUFG Bank,Ltd. Sakaihigashi Branch
Bank account No.3623132 SWIFT CODE : BOTKJPJT
Bank Address : 59-2 MIkunigaoka-Miyukidoori,Sakai-ku,
Sakai-shi,Osaka-fu 590-0028 JAPAN TEL:81-72-221-3041

編集後記

■主イエス・キリストの復活を心から賛美します。イエス・キリストの復活が全世界で記念され、イースターが祝福されますように。今月も皆様の祈りとご支援によって、「宣教の声」をお届けできる幸いに感謝します。

■先月、ロシアによるウクライナ侵攻が始まり心を痛めます。現地には多数の福音派クリスチャンとユダヤ人がいます。彼らの守りのためにお祈りをお願いします。

■イースターを記念し、小冊子「その時、わがたましいは歌う」（9）を出版しました。イースターにちなむ3曲の讃美歌詩背景が記されています。問い合わせと注文は事務局までお願いします。感謝。

1981年12月初版発行（毎月1回1日発行）